



Hermann Harp
JAPAN

日本ヘルマンハーブ振興会会報 Vol.43 (春夏特大号) 2018. 7. 7

発行 日本ヘルマンハーブ振興会 〒162-0816 東京都新宿区白銀町1-17 東邦神楽坂ビル2F Tel 03-6265-3547 Fax 03-6265-3549
URL www.hermannharp.com E-mail info@hermannharp.com

ザイテンクラング～弦の響き～

Saitenklang

ドイツが贈る音楽のバリアフリー

Grüß ～ごあいさつ～ 音の良さを聴き分ける達人

昨年の11月に大阪府視覚障害者福祉協会の青年部長の阿佐様と総務課の須波様が、ヘルマンハーブ御堂筋オフィスにご相談にお越しになりました。今年の3月に、青年部研修会でヘルマンハーブの体験イベントを開催したいというお話でした。

これまで振興会では、「目の日の集い」といった視覚障がいのある人のためのイベントなどで何度も演奏をした経験はありましたが、それらは聴いていただくイベントであり、弾いていただくイベントを開催したことはありませんでした。

これまでも、視覚障がいのある方は「音の良し悪し」を敏感に聴き分ける力を持っておられるので、「音のきれいなヘルマンハーブを弾けるようになりたい」という声を何度もいただいていたのですが、「楽譜が見えないとなるとヘルマンハーブは難しいのでは」という結論にとどまっています。

ところが、全盲の阿佐様に、「ドとレの間隔は弦2本分、ドからミへは弦4本分の間隔」という風に、手で音と音の間隔(距離)を覚えてもらったところ、ヘルマンハーブを抱えて弾くポジションで、「きらきら星」をすぐに弾けるようになったのです。

この結果に自信を得て3月に、大阪府盲人福祉センターでヘルマンハーブを体験する研修会を開催しました。当日参加された18名のほとんどの方にヘルパーさんが同伴されていました。ヘルマンハーブを弾くことにおいて、どのくらいヘルパーさんの補助が必要であるのかわか

りませんでした。横にいるヘルパーさんにも音から音への間隔が目で見えるように、音階のラインを太めに垂直にひいただけの「弦の幅間隔シート」を準備しました。抱えて弾く人、テーブルにもたれかけさせて弾く人、肩にのせて弾く人、どうすればうまくいくかは人それぞれです。共通するのは、できるだけ身体から離さず、自分の体の感覚と一体になるポジションを探すこと。次にはじく音への跳躍が少なく弾いていける曲を選ぶこともまた成功のコツです。



ヘルマンハーブを弾く全盲の阿佐さん

最後はお一人ずつソロで、練習した「歓喜の歌」や「ドレミの歌」を見事に披露。音を聴き分ける達人のみなさんは大満足の笑顔です。ヘルマンハーブの音に慣れ親しんでいる私たちにとっては、ヘルマンハーブという楽器の素晴らしい音質を改めて認識させてくれるイベントとなりました。

日本ヘルマンハーブ振興会 会長
梶原千沙都

寄稿

伝統と先端が融合する街・神楽坂の文化を育む

NPO法人粋なまちづくり倶楽部 副理事長
日置 圭子 様より



2003年より神楽坂のまちづくり活動に携わる。NPO法人粋なまちづくり倶楽部副理事長。神楽坂まち飛びフェスタ実行委員会委員長、(株)粋まち代表。新宿フィールドミュージアム協議会運営部会座長。

近年は、富山県南砺市城端の景観・文化再生事業に携わるなど、地方の文化企画等にも関わっている。

今でこそ人気の街として連日大変な賑わいの神楽坂ですが、私が引っ越してきた2000年頃の神楽坂は日曜日には人影もまばらな状態。新住民ながら、江戸の粋と花街の艶を感じさせる、路地と坂の街の魅力は本来こんなものではないはずという思いから、NPO粋なまちづくり倶楽部の活動に加わり、同時にまちの手づくり文化祭「神楽坂まち飛びフェスタ」の実行委員長として活動を始めて15年。この間、文化事業実施のために(株)粋まちも立ち上げました。

芸者さんとのお座敷遊び体験、「神楽坂落語まつり」等の落語会、街じゅうが伝統芸能で溢れる「神楽坂まち舞台・大江戸めぐり」など、江戸の昔から神楽坂が受け継いでき

た伝統文化を中心にイベント等を手掛けてきましたが、実は神楽坂の文化の魅力は常にその時代の先端、ホンモノを受け入れ育んできたことにあります。そんな魅力を伝える担い手になりたいと思う中、神楽坂に東京の拠点を移されたヘルマンハーブの梶原ご夫妻と出会ったのです。ヘルマンハーブは、そのまさにホンモノ。楽器の魅力、そのストーリー、そしてご夫妻の取り組み姿勢に感動して、早速NPOのメンバーやまち飛びフェスタ参加へお誘いしてしまいました。伝統と先端が融合する神楽坂。ヘルマンハーブがその文化の一つとして神楽坂に根付いてくださることを心から願っています